

町長日誌

No.178



町長日誌の第178号です。町長が日頃町民の皆さんと話し合ったことや色々な出来事を町長自ら書いたものです。町民皆さんのご意見・ご要望・ご感想をお待ちしています。

8月15日(水) PM 2:00

昨夜から弱い雨が静かに降り続けています。お墓参りをどうしようかと悩んだ方も多い事でしょう。私は、一足早く13日まで夏季休暇を頂きましたので、昨日(14日)から出勤しています。今朝、山口県周防大島町で12日から行方不明の2歳児が無事発見されたことが大きく報道されていました。発見したのはボランティアの人とか？ 昨今では自然災害は元よりあらゆる場面にボランティアが駆けつける時代になったのかと一人で感心していました。とにかく良かったですね。

今年は、利尻島に泳いで渡った雄のクマ、島牧村の集落に居ついて餌をあさっているクマ、根室の風連湖を泳ぐクマ、毎年のように札幌の郊外に出没するクマなどヒグマ出没のニュースが多く聞かれます。山に餌が無いのか？ 或は魚や人が捨てる生ゴミ等に味をしめたのか？ 理由は定かではありませんが人がクマを目にする回数が増えていることは確かです。私も今年になって数回目撃しています。つい先日などは役場から帰宅途中の秋里の道路で急に飛び出してきたヒグマとあわや接触と言うことがありました。クマの運動神経がとても良かったようで見事な急旋回をしてくれたお蔭で、双方無事でした。私は最初、何があったか判断出来ない状況で、ぎりぎり路肩側にハンドルを切るのが精一杯でした。只々、クマの強力な爪スパイクの制止力のお蔭でした。私もびっくりしたけれど、クマの方も驚いたと思います。

さて、今年は北海道命名150年、興部は130年の節目の年です。この年月が開拓の歴史であったことは皆様ご承知のことです。また、私たちの先祖よりもっと前からこの地に住んでいたのがアイヌの人々であり、さらにその前からこの地に住んでいたのがヒグマです。しかし、このヒグマ、実はとても臆病で冬眠から目覚めた春先と、冬眠のために餌を求める秋以外には滅多に人前には姿を現さないためか、アイヌの人々は神として恐れ敬いました。過去には、大変な冷害時に家畜を襲ったり、時には人を

襲うことも有ったことは確かですが、ヒグマが北海道開拓に大きく妨げになった話はあまり耳にしたことがありません。ところが、昨今マナーの悪い人が捨てるゴミ等の味を覚えて、人里近くで生活する若いクマが増えたようです。地方の過疎化が進む中ヒグマ・エゾシカ・キタキツネなどの頭数が増え、人里に下りやすくなっていることは事実ですが「北海道の開拓」は先住民のアイヌにとっては侵略以外の何物でもなかった事実、さらにはヒグマなどの野生動物の棲家を奪ったのが開拓であり、その上に私たちの今の生活が成り立っていることを忘れてはいけないと私は思います。

8月4日(土)~5日(日)

第36回おこっぺ夏まつり前夜祭の日です。雨の心配もまったく無く、130年を記念したSTVラジオ公開収録が午後3時から行われるなど、いつもより早い時間からのスタートとなりました。今年は町が130年目の節目の年であることから、札幌おこっぺ故里会から富田房雄会長、水島典弘元会長、山田重孝前会長など20名の皆様が来てくださいました。夕方からは私たちと夕食を一緒に摂って頂き、花火も見てもらいました。花火を応援して頂いていますニトリ会長の奥さまも故里会の会員ですが、今回は残念ながらご都合がつかせませんでした。皆様花火の素晴らしさに大変感激をされていました。故里会も今年40周年となりますが、皆様それぞれに旧交を温めていました。翌日は朝から公民館で開催中の昔の写真展を見ていただいた後、北興のバイオガス施設を見て頂きましたが、とても熱心な質問が多かったようです。昼食後バスで帰路につかれました。故里会は10年前にも同様に来町され、桜の苗木を保育所の西側に植樹して頂きましたが、その桜も見事に成長して素晴らしい花を毎年咲かせています。なお、今回は記念として置時計を寄贈して下さいました。本当にありがとうございました。故里会の皆様、これからも末永く町の応援団として宜しくお願いします。

本当に寒いお盆でしたが、また暑くなりそうな気象予報です。ただ、気になるのは台風です。一ヶ月以上早いペースで台風が次々発生しています。穏やかな秋になってくれることを願うばかりです。夏休みも間もなく終わり新学期が始まります。夏の疲れに負けず元気にお過ごしください。では、また。

お便りをいただく場合は、適当な便箋等を封筒など(使い古しのもので構いません)に入れ、封をして、町役場窓口か、お知り合いの町職員にお渡し願います。町長のみ開封とし、お返事をさせていただきます。不明な点は、総務課総務厚生係まで。TEL 82・2131です。

